

ピットと測る脇下体温計 DT-918

取扱説明書 / 保証書

この度は、ピットと測る脇下体温計 DT-918 をお買い上げいただきありがとうございます。ご使用前に、この取り扱い説明書を最後まで必ずお読みいただき、正しく安全にお使いください。なお、本書をお読みいただきました後は、いつでも見られるように大切に保管してください。

保証書

安全上のご注意

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。ここに示した内容はあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠警告	誤った取扱いをすると人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	誤った取扱いをすると人が傷害を受けたり物的損害*の発生が想定される内容を示しています。

※物的損害とは、家屋、家財および家畜、ペットにかかわる損害を示します。

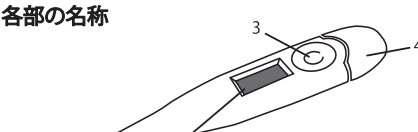
⚠警告

- 本製品での測定結果を医師の診断に代えることはできません。測定結果による自己判断の危険です。必ず医師の指示に従ってください。
- 指定条件以外の環境・方法での使用はしないでください。
- 本製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。感電、ショート、故障、発熱、火災の原因になります。
- 測定データの精度を確保するために、電磁干渉の強い環境（マイクロ波、高周波機器周辺など）では測定しないでください。
- 測温部先端で目をつかないようにしてください。失明の恐れがあります。
- 本製品に破損や故障がある場合はご使用にならないでください。
- 個人での分解・修理をしないでください。
- お子様の手の届かない場所に保管してください。またお子様だけの使用はしないでください。
- お子様が電池キャップ等をいじったりなめたりして電池や電池キャップ等を飲み込まないように注意してください。電池や電池キャップ等を飲み込んだ場合、喉につまったり体調悪化の恐れがあります。
- 万一電池などを飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。
- 万一電池から液漏れした場合は、液には触れないでください。皮膚の炎症や失明に繋がります。
- 人以外の検温には使用しないでください。
- 本製品および電池を火中に投入しないでください。

⚠注意

- 本製品は脇下専用の体温計です。それ以外の部位での測定はしないでください。正確に測定できない場合があります。
- 本製品は精密機器ですので、落下させたり、踏みつけたり、振動や衝撃を与えたりしないでください。
- 測定中は本製品の近くに携帯電話やコードレス電話を使用しないでください。
- 運動、食事、入浴などをした後は、30分程度室内で安静にしてから測定してください。
- 周囲の温度差が激しい場合は、室内に30分程度置いてからご使用ください。これにより、信頼性のある安定した測定結果が得られます。
- 人の体温に関する絶対的な標準値が存在しないため、発熱の有無の参照として、普段から平常時の体温を記録しておいてください。
- 特定の薬物治療を受けている場合は医師の指示に従ってください。
- 薬の服用をした場合、効果持続時間内は薬物の作用で体温が上昇 / 下降する可能性がありますので、測定を避けるようにしてください。
- 本製品は本書に記載された方法で保管してください。
- 本製品の材質（ABS、ステンレス）は、ISO 10993-5 および ISO 10993-10 の医療機器の生物学的安全性評価基準テストに合格しており、毒性、アレルギー、刺激反応が十分に低いことが確認されています。
- 火気の近くには絶対に置かないでください。変形や火災の恐れがあります。
- 本製品内部に液体や異物が入らないようにしてください。
- 熱湯消毒や揮発性の液体（シンナー等）でのお手入れはしないでください。
- 小さなお子様やペットが噛んだり、飲み込んだりする危険性がありますので、保管には十分ご注意ください。
- 電池を交換する際は、＋・－を間違えないように挿入してください。
- 湿気、直射日光、温度の急激な変化、ホコリ等のある場所での使用、保管は避けてください。
- 電池が消耗し、電池消耗マークが表示された場合は、速やかに新しい電池（LR41）と交換してください。
- 電池はLR41をご使用ください。それ以外の物は故障の原因となりますので、絶対に使用しないでください。
- 使用済みの電池はテープ等で絶縁してください。他の電池や金属と混ぜると発熱、破裂、発火の原因になります。
- 使用済みの電池および製品は、お住まいの市区町村の指示に従って処分してください。
- 長期間使用しない場合は電池を本体から取り出してください。
- 電池はショートさせないでください。

各部の名称

	
1	測温部
2	表示部（ディスプレイ）
3	電源スイッチ
4	電池キャップ *電池交換の際に取り外す
5	電池消耗マーク「■」*電池消耗を検知すると点灯
6	前回値マーク「M」*前回測定値表示中に点灯

セット内容

最初にセット内容をご確認ください。
*純正部品のみを使用してください。お届けしたセット内容に問題がないことを確認してください。

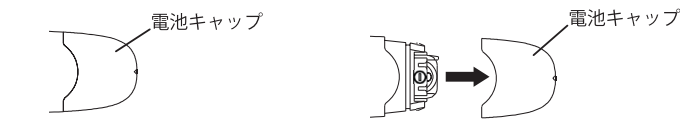
- DT-918(本体)……………1本
- 収納ケース……………1個
- 取扱説明書……………本書
- 品質保証書……………本書
- お試用電池LR41(本体装着)……………1個
- 医療機器添付文書……………本書
- EMC技術資料……………本書

お試用電池について

本製品には付属の電池が本体に装着されています。電池寿命は約2年ですが、付属電池はお試用のため、上記寿命より短い場合があります。

電池の取り出し方

- ①本体を裏返しにします。
- ②電池キャップを外します。



- ③下記図のように先の細い棒を使用して、電池全体が見えるまで電池装着部(10mm)を引き出します。
 - ※電池全体が見えたら、それ以上引き抜かないでください。センサーの断線の原因になります。
 - ※本体中身は優しく、ゆっくり引き抜いてください。
 - ※基板には指が触れないようにしてください。

- ④電池を取り外してください。
 - ※使用済みの取り外した電池はお住いの市区町村の指導に従ってください。

電池の取り付け方

- ①本体を裏返して電池の－(マイナス)面が見える向きで電池スペースに押し込んでください。
 - ※電池装着時に「ピット」と1回音が鳴って、しっかり固定されていることをご確認ください。

- ②電池装着部を元の位置に戻してください。(約10mm押し込む)

- ③電池キャップを取り付けてください。
 - ※電池キャップ内側の突起が上面にある状態のまま取り付けてください。



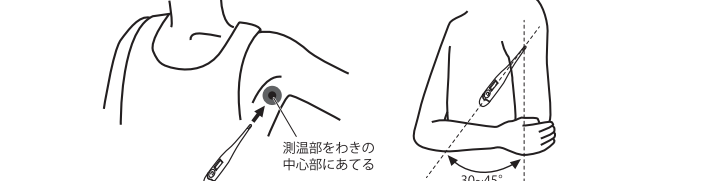
⚠注意

電池の交換時に電池や電池キャップをおお客様の手の届くところに置かないでください。誤飲の恐れがあります。

体温を正しく測るためには

- [検温前のご注意]
- ・測る前に、わきの下の汗を拭き取ってください。
 - ・体温計が冷えている場合、体温計を室温に十分なじませてから検温ください。

- [検温中のご注意]
- ・わきの下のくぼみ中心部に体温計の先端の測温部を斜め下(30～45°)から少し押し上げるようにしてあて、わきをしっかりとめてください。
 - ・小さなお子様の場合は、腕の外側から優しく押さえて、体温計が動かないようお気を付けください。



- [こんな時は正しく測れません]
- ・起床直後に、すぐに動き出した場合は、正しく測れないため、30分以上時間をあけてください。
 - ・入浴、運動、飲食直後等は、体温が上がっていますので、30分以上時間をあけてください。
 - ・汗をかいていると実際より、低い体温を示すことがあるため、汗を拭き取ってから検温ください。

体温の測りかた

- ①体温計を収納ケースから、取り出してください。
- ②電源スイッチを押します。
- ③ピットと音が鳴り、表示部が全点灯します。(約2秒間)

- ④前回値を表示します。(前回測定値表示中は「M」マークが表示されます。)

- ⑤「**Lo**」を表示し「**T**」が点滅したら、わきの下へ挟みます。
 - ※外気温が32℃を超えている場合は、測温部があたたまり「**Lo**」を表示しないことがあります。そのまま検温ください。

- ⑥わきの下へ挟む
 - ※わきの下のくぼみの中心部へ測温部があたるように斜め下方向（30～45°）から少し押し上げるように体温計を挟み、わきをしっかりとめてください。

- ⑦体温を測定します。「**Lo**」から「**32.0**」に表示が変わり、検温を開始します。

- ⑧そのまま検温を続けると、測温部が体温に馴染み一定期間、体温値の変化がなくなったことを検知すると終了予告ブザーが「ピー、ピー」…と10回鳴り、℃表示が点滅から点灯に変わります。

- ⑨その後も測温状態を続けていますので、最低3分以上はそのまま検温を続けてください。※正確な検温のためには約8分の検温を推奨します。(測定開始後、約8分後の検温値を読み取ってください。)

- ⑩オートパワーオフにより、検温開始から10分±2分後に自動的に電源を切り、消灯します。

[37.8℃を超えた場合のお知らせ]
検温値が、37.8℃を超えた場合に、「ビビビ」、「ビビビ」…とブザーが10回鳴ります。(検温値が43℃以上の場合は「**H**」を表示します。)

※検温後は、測温部を消毒用アルコールまたはぬるま湯等をしみ込ませしっかり絞った布等で拭き取り、常に清潔にして収納ケースに戻し保管ください。

【終了予告ブザーとは】

検温開始後、測定温度の平衡温度検知条件として、32秒間0.1℃以内に収まったときに終了予告ブザーによりお知らせします。このブザーでのお知らせ後、緩やかに測定温度が更に上昇することがあります。体温をより正確に測定する場合には、約8分間の継続測定をおすすめします。

終了予告ブザーのお知らせタイミング

お手入れ方法について

- ・測温部は、消毒用アルコールを含ませたガーゼ、布等で軽く拭き取ってください。
- ・本体は、水、ぬるま湯をしみ込ませしっかり絞った布または乾拭き等で水気を拭き取り、清掃後に収納ケースへ収め保管ください。(※測温部以外の本体を消毒用アルコールで拭き取ると変色する場合がありますので拭かないでください。)

こんな状態になったら / 故障かなと思ったら

製品の状態	原因	対処方法
電源スイッチを押しても表示が出ない	電池が正しくセットされていますか？ 電池が消費していませんか？	「電池の取り出し方」を参照してください。
「■」マークが出る	電池が消費しています。	「電池の取り出し方」を参照してください。
体温にばらつきが出る時がある	検温中に測温部がわきの下で上手く固定できず動いたりしていませんか？ わきが汗などで濡れていませんか？ 入浴・運動直後に検温していませんか？	「体温を正しく測るためには」を参照してください。
測定中に「 H 」もしくは「 Lo 」の表示が出る	測定範囲外の告知表示です。 31.9℃以下「 Lo 」表示 43.0℃以上「 H 」表示	正しい測定位置で再度検温してください。

メンテナンス
製品についてご不明な点がある場合は、アイリスコールにお問い合わせください。

絶対にご自身で本製品の分解、修理をしないでください。本製品を分解した場合は、保証が無効になりますのでご注意ください。

⚠注意

本製品の修理、分解は禁止されています。

仕様

医療機器分類	管理医療機器（クラスⅡ）
一般的名称	電子体温計
販売名	ピットと測る脇下体温計 DT-918
医療機器認証番号	305AGBZX00070000
測定方式	零勾配検出による終了予告ブザー及び約8分間の実測式
測定範囲	32.0℃～42.9℃ 31.9℃以下「Lo」、43.0℃以上「Hi」表示
測定精度	±0.1℃(環境温度23℃にて、恒温水槽で実測測定した場合)
温度表示	3桁 0.1℃単位
電源電圧	DC1.5V (LR41)
電撃保護	内部電源機器 <input checked="" type="checkbox"/> =BF形装着部
電池寿命	約2年
防水性能	IP22
使用環境条件	温度：10℃～40℃ 湿度：30～85%RH
保管環境条件	温度：－20℃～60℃ 湿度：30～95%RH
サイズ	約幅130×奥行19.5×高さ10.8mm
質量	約10g(電池含む)

=取扱説明書を参照

製造販売業者

外国製造業者：VEGA TECHNOLOGIES INC.（中華人民共和国）
製造販売業者：株式会社ICST
埼玉県さいたま市中央区上落合5丁目17-1 S-4 タワー
電話番号：048-857-8026

販売業者

アイリスオーヤマ株式会社

〒980-8510 仙台市青葉区五橋2丁目12番1号

ヘルスケア事業部 ホームページ <https://www.irisohyama.co.jp/>

製品に関するお問い合わせ 9:00～17:00(年末年始・会社都合による休日を除く)

アイリスコール (通話料無料) **0120-821-109**

Webからのお問い合わせは <https://www.irisohyama.co.jp/support/>

●お問い合わせの際は製品の型番をお調べいただき、説明書・ご購入履歴のわかるもの・メモのご用意をお願いします。

電子添文

電子添文は、右記の2次元コードまたは添文ナビ（スマートフォンアプリ）で化粧箱のGS1-128バーコードを読み取って入手してください。ご使用の際は電子添文を確認してからご使用ください。



保証規定

- 弊社製品が万一自然故障した場合は、保証規定により無償補償いたします。
- 次の場合は、上記補償の対象にはなりません。
 - ①ご使用上の誤り（取扱説明書に記載のない操作等）により生じた故障。
 - ②弊社または指定業者以外での修理、改造、分解等をされた場合。
 - ③火災、天災、地震、落雷、異常電圧等による故障。
 - ④浸水、落下、泥、砂などにより生じた故障。
 - ⑤保管上の不備や、手入れの不備による故障。
 - ⑥保証書の添付のない場合。
 - ⑦故障の原因が製品以外の部分である場合。
 - ⑧電池などの消耗に起因する故障。
- 補償の対象となる部分は本体のみで、製品に記録されているデータおよび消耗品（電池類）は補償の対象とはなりません。また、製品が交換される場合につきましても製品に記録されているデータが消去される場合がございますので予めご了承ください。
- 製品の使用または故障に起因する直接的および間接的な障害につきましては一切補償いたしません。
- 保証書は本規定にて明示した期間、条件下での無償補償をお約束するものです。したがって、この保証書によってお客様の法律の権利を制限するものではありません。

<p style="text-align:center">保証書</p> <p style="text-align:center">【一般的名称：電子体温計】</p> <p style="text-align:center">【販売名：ピットと測る脇下体温計 DT-918】</p>
--

この度は弊社商品をお買い上げいただきまことにありがとうございます。万が一、通常のご使用において保証期間内に不具合が発生した場合は、保証規定にしたがって無償にて補償いたします。お問合せはアイリスコールまでご連絡願います。

ご購入日： <p style="text-align:center">年 月 日</p>	保証期間： <p>ご購入日より1年間</p> <p>※製品の保証は日本国内のみ有効です。</p>
--	--

お客様	お客様名：
	ご住所：
	Tel:

販売元	販売店名：
	住所：
	Tel:

販売業者：アイリスオーヤマ株式会社 ヘルスケア事業部
〒980-8510 仙台市青葉区五橋2丁目12番1号
アイリスコール (受付時間9：00～17：00)：0120-821-109

※ご購入日および販売元の明記がないものは無効となります。
2023年12月(初版)

2023年11月作成（新様式第1版）

機械器具 16 体温計
管理医療機器 電子体温計（14032010）
ピットと測る脇下体温計 DT-918

【警告】

・お子様の手の届かない場所に保管してください。
[本体の先端を嚙んだり、誤飲やけがの恐れがある。]

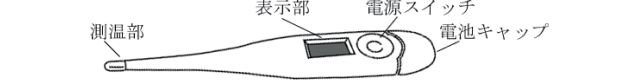
【禁忌・禁止】

・人以外の検温には使用しないでください。
[ケガをするおそれがある。]
・測定結果の自己判断や治療は危険ですので、医師の診断に従ってください。

【形状・構造及び原理等】

〈概要〉

患者の体温を測定するための測定装置である。本器は、表示ユニットとセンサ及びその他からなり、体温を検出し、ある電気特性（抵抗、電圧等）に変換するものである。このような電気特性は、電子回路内で処理した後、最高温度保持し、体温値としてデジタル表示される。



付属品：収納ケース
外形寸法：130mm×19.5mm×10.8mm 公差：±1mm
質量 　　：約10g（電池含む）
体に触れる部分の原材料 測温部:SUS304 ステンレススチール
本体 　　：ABS樹脂

〈電気的定格〉

- 電源：DC1.5V（LR41 x1 個）
- 電池寿命：約2年
- 分類：内部電源機器、BF 形装着部
- 水の浸入に対する保護の程度による分類：IP22

〈原理〉

本器は、腋下での検温を目的とした装置であり、測温部での温度変化を感温素子により電流量に変換し、集積回路にて演算処理を行い体温値を表示する。検温結果は、常に実測での最高温度値を表示する。

〈仕様〉

- 測定範囲：32.0～42.9℃
- 温度精度：最大許容誤差±0.1℃

※標準室温 23℃にて、恒温水槽で実測測定した場合
- 使用条件：周囲温度 10～40℃

相対湿度 30～85%RH（結露なきこと）

【使用目的又は効果】

測温部を部位に接触させて、腋窩の体温を測定し、最高温度を保持しデジタル表示すること。

【使用方法等】

- 体温計を収納ケースから取り出し、電源スイッチを押します。ピットと音が鳴り、表示部が全点灯します。次に、前回値を表示します。
- 「Lo ℃」を表示したらわきの下へ挟みます。わきの下のくぼみの中心部へ測温部があたるように斜め下方向（30～45°）から少し押し上げるように体温計を挟み、わきをしっかりとしめてください。
- 体温を測定します。「Lo ℃」から「32 ℃」に表示が変わり、検温を開始します。
- そのまま検温を続けますと、測温部が体温に馴染み一定期間、体温値の変化がなくなったことを検知すると終了予告ブザーが「ピー、ピー」…と10回鳴り、℃表示が点滅から点灯に変わります。
- その後も測温状態を続けていますので、最低3分以上はそのまま検温を続けてください。

※正確な検温のためには約8分の検温を推奨します。（測定開始後、約8分後の検温値を読み取ってください。）
- オートパワーオフにより、検温開始から10分±2分後に自動的に電源を切り、消灯します。[37.8℃を超えた場合のお知らせ] 検温値が、37.8℃を超えた場合に、「ビビビ」、「ビビビ」…とブザー

取扱説明書を必ずご参照ください。

認証番号：305AGBZX00070000

が10回鳴ります。（検温値が43℃以上の場合は「Hi℃」を表示します。）
⑦検温後は、測温部を消毒用アルコールまたはぬるま湯等をしみ込ませしっかりと絞った布等で拭き取り、常に清潔にして収納ケースに戻し保管ください。

【使用上の注意】

- 汗をかいていると実際より、低い体温を示すことがあるため、汗を拭き取ってから検温すること。
- 修理、改造、分解は絶対に行わないこと。
- 超音波洗浄はしないでください。[故障の原因になる。]
- 使用前後に必ず本器を洗浄すること。
- お子様にご使用の際は、先端の測温部で目を突いたり、電池を誤飲しないよう保護者の監視下で使用すること。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談すること。
- 小さなお子様の場合は、腕の外側から優しく押さえて、体温計が動かないよう気を付けること。
- 水中に放置したり、水道からの流水に直接あてないこと。[故障の原因になる。]
- 本器が冷えている場合、本器を室温に十分なじませてから検温すること。
- 測温部の先端で目を突かないように注意すること。[失明の恐れがある。]
- 起床、入浴、運動、飲食直後等は、体温が上がっているので、30分以上時間をあけてから検温すること。
- 周囲温度が32℃を超えている場合は、測温部が温まり「Lo ℃」を表示しないことがある。その場合は、測温部を水で冷やしてから再度、検温すること。[正しく計測できない恐れがある。]
- 強くたたいたり、落したりしないこと。[故障の原因になる。]
- 火気の近くには絶対に置かないこと。[変形や火災の恐れがある。]

【保管方法及び有効期間等】

- 〈保管方法〉
 - 次のようなところに保管しないこと。
 - 高温・多湿、直射日光、ほこり、暖房器具のそば、塩分などを含んだ空気の影響を受けるところ。
 - 傾斜、振動、重圧、衝撃（運搬時を含む）のあるところ。
 - 化学薬品の保管場所や腐食性ガスの発生するところ。
 - お子様の手が届く場所。
- 保管環境条件：-20～+60℃、30～95%RH（結露なきこと）

（耐用期間）
標準的な使用期間の目安：5年
〔自己認証（VEGA社データ）による〕

【保守・点検に係る事項】

- 測温部先端を消毒する場合は、消毒用アルコールを含ませたガーゼ、布等で軽く拭き取ること。
- その他の本体は、消毒用アルコールで拭き取ると変色する場合がありますので拭かないこと。
- 本器は、水、ぬるま湯をしみ込ませしっかりと絞った布または乾拭き等で水気を拭き取り、清掃後に収納ケースへ収め保管すること。
- 測温部の熱湯消毒や揮発性の液（シンナー等）でのお手入れはしないこと。
- 長期間使用しない場合は、電池は取り外して保管すること。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

〈製造販売業者〉
業者名：株式会社 I C S T
T E L 　：048-857-8026

〈外国製造業者〉

業者名：VEGA TECHNOLOGIES INC.
国　名：中華人民共和国

EMC技術資料

2023年12月 初版

ピットと測る脇下体温計 DT-918

本製品は、医用電気機器の安全使用のために要求されている EMC(電磁両立性)規格、JIS T 0601-1-2:2018 に適合しています。

お使いいただく際は、本製品に付属の医療機器添付文書及び取扱説明書をよく読んでお使いください。

■EMC(電磁両立性)とは
EMC(電磁両立性)とは、次の二つの事項を満たす能力のことです。
・周辺への電子機器に、許容できない障害を与えるようなノイズを出さない。(エミッション)
・周辺への電子機器から出されるノイズ等、使用される場所の電磁環境に耐え、機器の機能を正常に発揮できる。(イミュニティ)
JIS T 60601-1-2 に代表される EMC 規格は、医用電気機器を安全に使用するため、機器から発生するノイズが他の機器に影響を及ぼしたり、他の機器（携帯電話等）が発する電磁波から受ける影響を、一定のレベル以下に抑えるよう規程した規格です。
JIS T 60601-1-2:2018(5.2.2 項)において、機器が安全に機能するための EMC 環境に関する詳細な情報を使用者に提供することが求められているため、EMCにかかわる技術的な説明を以下に記載します。（詳細は、JIS T 60601-1-2:2018 をご参照ください。）

■EMC(電磁両立性)に関する技術的な説明
医用電気機器は、EMC に関して特別な注意を必要とし、次に記載する EMC の情報に従って使用する必要があります。
【警告】
・本機器は電磁両立性(EMC)に関して、特別な注意が必要であり、本書に記載された EMC 情報に基づいて使用しなければなりません。
・携帯及び移動無線周波(RF)通信機器により本機器は影響を受けることがあります。
・本機器は、他の機器に密着させたり、重ねた状態で使用しないでください。

表 1－ ガイダンス及び製造業者による宣言－ 電磁エミッション－

ガイダンス及び製造業者による宣言－ 電磁エミッション		
本製品は、次に指定した電磁環境内での使用を意図しています。本製品の顧客又は使用者は、このような環境内でそれを用いていることを確認することが望ましい。		
エミッション試験	適合性	電磁環境－ 指針
RF エミッション CISPR11	グループ 1	本製品は、内部機能のためにだけに RF エネルギーを使用している。したがって、その RF エミッションは非常に低く、近傍の電子機器に対して何らかの干渉を生じさせる可能性は少ない。
RF エミッション CISPR11	クラス B	本製品は、下記を含むすべての施設での使用に適する。
高調波エミッション IEC61000-3-2	非適用	本製品は、下記を含むすべての施設での使用に適する。 <家庭用施設、及び家庭目的で使用される建物に電力を供給する公共の低電圧用の配電網に直接接続された施設。>
電圧変動/フリッカエミッション IEC61000-3-3	非適用	

表 2－ ガイダンス及び製造業者による宣言－ 電磁イミュニティ－

ガイダンス及び製造業者による宣言－ 電磁イミュニティ			
本製品は、次に指定した電磁環境内での使用を意図しています。本製品の顧客又は使用者は、このような環境内でそれを用いていることを確認することが望ましい。			
イミュニティ試験	JIS T 0601 試験レベル	適合レベル	電磁環境－ ガイダンス
静電気放電 (ESD) JIC C 61000-4-2	±8 kV 接触 ±15 kV 気中	±8kV 接触 ±15kV 気中	床は木材、コンクリート又はセラミックタイルであることが望ましい。 床が合成材料で覆われている場合、相対湿度は少なくとも 30％であることが望ましい。
電氣的ファーストランジェント/バースト JIS C 61000-4-4	±2 kV 電源ライン ±1 kV 入出力ライン	非適用	非適用
サージ JIS C 61000-4-5	±1 kV ライン-ライン間 ±2 kV ライン-設置間	非適用	非適用
電源入力ラインでの電圧ディップ、短時間停電及び電圧変動 JIS C 61000-4-11	0%UT (0.5 サイクル) 0%UT (1 サイクル) 70%UT (25 / 30 サイクル) 0%UT (250 / 300 サイクル)	非適用	非適用
電源周波数 (50 / 60 Hz) 磁界 JIS C 61000-4-8	30 A/m	30 A/m	電源周波数磁界は、標準的な商用又は病院環境における一般的な場所と同レベルの特性を有することが望ましい。
注記 UH1は、試験レベルを加える前の、交流電源電圧である。			

表 3－ ガイダンス及び製造業者による宣言－ 電磁イミュニティ－

ガイダンス及び製造業者による宣言－ 電磁イミュニティ			
本製品は、次に指定した電磁環境内での使用を意図します。本製品の顧客又は使用者は、このような環境内でそれを使用されることを確認してください。			
イミュニティ試験	JIS T 0601 試験レベル	適合レベル	電磁環境－ ガイダンス
伝導 RF JIS C 61000-4-6	3 Vrms (150 kHz～80 MHz) 6 Vrms (150 kHz～80 MHz 間の ISM 及びアマチュア無線帯域)	非適用	携帯形及び移動形 RF 通信機器は、本製品のいかなる部分に対しても、送信機の周波数に該当する方程式から計算した推奨分離距離より近づけて使用しないことが望ましい。 推奨分離距離 非適用
放射 RF JIS C 61000-4-3	10 V / m(80 MHz～2.7 GHz)	10 V/m	d = 1.2 √P 80 MHz ～ 800 MHz d = 2.3 √P 800 MHz ～ 2.7 GHz ここで、P は、送信機製造業者によるワット(W)で表した送信機の最大定格出力電力であり、d はメートル(m)で表した推奨分離距離である。 電磁界の現地調査 a)によって決定する固定 RF 送信機からの電界強度は、各周波数範囲における適合レベルよりも低いことが望ましい。 次の記号が表示されている機器の近傍では干渉が生じるかもしれない。
注記 1 80 MHz 及び 800 MHz においては、高い周波数範囲を適用する。 注記 2 これらの指針は、すべての状況に対して適用するものではない。建築物・物・人からの吸収及び反射は、電磁波の伝搬に影響する。			
注 a) 例えば無線（携帯／コードレス）電話及び陸上移動無線の基地局、アマチュア無線、AM・FM ラジオ放送及び TV 放送のような固定送信機からの電界強度を、正確に理論的に予測することはできない。固定 RF 送信機による電磁環境を見積もるためには、電磁界の現地調査を考慮することが望ましい。 本製品が使用される場所の正確な電界強度が、適用される RF 適合性が上記レベルを超過する場合、正常通常動作を検証するために、本製品を監視すること、異常な動作が発見された場合、追加の手段、例えば、本製品の向き又は場所を変えることが必要となることがある。 注 b) 周波数範囲 150 kHz ～ 80 MHz で、電磁界強度は 3V / m 未満であることが望ましい。			

表 4－ 携帯形及び移動形 RF 通信機器と機器又はシステムとの間の推奨分離距離－

携帯形及び移動形 RF 通信機器と本製品との間の推奨分離距離			
本製品は、放射 RF 妨害が管理されている電磁環境内での使用を意図している。本製品の顧客又は使用者は、通信機器の最大出力に基づく次に推奨している携帯形及び移動形 RF 通信機器（送信機）と本製品との間の最小距離を維持することで、電磁障害を抑制するのに役立ちます。			
送信機の最大定格出力電力 (W)	送信機の周波数に基づく分離距離 (m)		
	150 kHz～80 MHz (3 Vrms, 6 Vrms) 非適用	80 MHz～800 MHz d =1.2√P	800 MHz～2.7 GHz d =2.3√P
0.01	非適用	0.12	0.23
0.1	非適用	0.38	0.73
1	非適用	1.2	2.3
10	非適用	3.8	7.3
100	非適用	12	23
上記にリストされていない最大定格出力電力の送信機に関しては、メートル(m)で表した推奨分離距離 d は、送信機の周波数に対応する方程式を用いて決定できる。 ここで、P は、送信機製造業者によるワット(W)で表わした送信機の最大定格出力電力である。 注記 1 80 MHz 及び 800 MHz においては、分離距離は、高い周波数範囲を適用する。 注記 2 これらの指針は、すべての状況に対して適用するものではない。建築物・物・人からの吸収及び反射は、電磁波の伝搬に影響する。			

表 5－ ガイダンス及び製造業者による宣言－ 電磁イミュニティ－

ガイダンス及び製造業者による宣言－ 電磁イミュニティ							
本製品は次に指定した電磁環境内の使用を意図している。本製品の顧客又は使用者は、このような環境内で使用されることを確認すること。							
無線通信機からの近傍電磁界 JIS C 61000-4-3	試験周波数 (MHz)	周波数帯域 a)	サービス a)	変調 b)	最大電力 (W)	距離 (m)	試験レベル (V / m)
	385	380-390	TETRA 400	パルス変調 b) 18 Hz	1.8	0.3	27
	450	430-470	GMRS 460、FRS 460	FM C) ±5 kHz 偏差 1 kHz 正弦波	2	0.3	28
	710、745、780	704-787	LTE 帯域 13, 17	パルス変調 b) 217 Hz	0.2	0.3	9
	810、870、930	800-960	GSM 800 / 900 TETRA 800 iDEN 820 CDMA 850 LTE 帯域 5	パルス変調 b) 18 Hz	2	0.3	28
	1720、1845、1970	1700-1990	GSM 1800 CDMA 1900 GSM 1900 DECT LTE 帯域 1, 3, 4, 25 UMTS	パルス変調 b) 217 Hz	2	0.3	28
	2450	2400-2570	Bluetooth WLAN 802.11 b/g/n RFID 2450 LTE 帯域 7	パルス変調 b) 217 Hz	2	0.3	28
	5240、5500、5785	5100-5800	WLAN802.11 a / n	パルス変調 b) 217 Hz	0.2	0.3	9
	備考：イミュニティ試験レベルを達成するために必要な場合には、送信アンテナと本製品との間の距離を 1m にしてもよい。1m の試験距離は JIS C 61000-4-3 で許容されている。 a) サービスによってはアップリンク周波数だけが含まれる。 b) 搬送波は、50%デュティーサイクル矩形波信号を用いて変調しなければならない。 c) FM 変調の代わりとして、18 Hz での 50%パルス変調を用いてもよい。 これは実際の変調を表すわけではないが、最悪状態と考えられるためである。						